

日米親善 人形使節

長崎瓊(たま)子の里帰り

今から約80年ほど前、大正の末から昭和の初めにかけて、貿易摩擦と移民問題から、日米間の関係が険悪になった時期がありました。

それを心配した、元宣教師で親日家のシドニー・ギューリック博士は「ひな祭り」にヒントをえて、日本の子どもたちへ、使節としてアメリカの人形を贈り、友好と親善をはかろうと思い立ちました。

そして、全米に運動を広げ市民や子どもたちの善意の資金で約1万3千体の人形を、昭和2年5月太平洋を渡って日本へ贈ってきました。

当時、日本では国をあげてこれを歓迎し、全国の市町村で盛大な歓迎会を行い、各地の小学校や幼稚園へ配布しました。

また、日本でもその答礼として、小学生や市民を中心に日本人形を贈ることにし、小学生1人1銭の募金を集め、各県で1体ずつ、58体の立派な市松人形を作り、各地で盛んな歓送会を行い、はるばる米国へ送りだしました。これもまた米国で盛大に歓迎されました。

この、日米人形使節の交流により、一時

的ではありませんでしたが両国の間に温かい親善の気持ちが湧き上がり、険悪な空気を和らげることができました。

そのあと、10数年後、日米間に不幸な戦争が起き、人形たちにもきびしい運命が訪れました。日本側では「敵性人形」として、焼かれたり、こわされたりして、現在約300体しか残っておりません。うち、長崎県には送られた214体のうち2体だけが残り、1体(リトル・メリー)は島原の第1小学校に保存されています。

米国側には44体の存在が分かっています。長崎県から送られた人形、長崎瓊(たま)子は長らく行方不明でしたが最近、米国北部ロチェスターの博物館に健在であることが分かり、その「里帰り」を実現させようという運動が行われています。

この「里帰り」と「瓊子・メリーの会見」を実現させ、国際親善と平和を考えるために、人形使節について研究され、今回の瓊子発見に尽力された日米のボランティアの人形交流研究の方々に下記のようにお話を伺うことにいたしました。

どうぞお繰り合わせ、お誘いあってご出席ください。

記

- | | |
|---------|--|
| 1) 日 時 | 平成14年10月13日(日) 午後7時30分より |
| 2) 場 所 | 市内新町 市立霊丘公民館 3階ホール |
| 3) 内 容 | 講 演 ①日米親善人形使節について ビル・ゴードン先生
②長崎瓊子の発見 遠山博文先生
展 示 長崎瓊子写真 メリー・エレン写真 当時の関係写真 |
| 4) 講師紹介 | ビル・ゴードン先生 ・公認会計士 会社経営 奥様は北海道出身
遠山博文先生 ・県立高校教師 長崎工高を今年定年退職 |
| 5) 主 催 | 島原市民文化講座 島原文化連盟 島原市教育委員会 |
| 6) 後 援 | 島原ライオンズクラブ 島原ロータリークラブ
国際ソロプチミスト島原 |